

厚生労働省科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）

難治性めまい疾患に関する調査研究

分担研究報告書

遅発性内リンパ水腫の疫学調査に関する研究

平成 28 年度遅発性内リンパ水腫とメニエール病の疫学調査

分担研究者 將積日出夫 富山大学教授

## 研究要旨

平成 28 年の遅発性内リンパ水腫の疫学調査では、患者は 46 例で同側型が 61%、対側型は 39%であった。平成 28 年度のメニエール病の疫学調査では、新規発症確実例は計 140 例であった。メニエール病の有病率は人口 10 万人対 74 人（本邦患者数推定 9 万 4 千人）と推定され、性差は女性優位、高齢新規発症患者の増加傾向が確認された。

## A．研究目的

これまで厚生労働省前庭機能異常調査研究班の班員が行ってきた疫学調査は、メニエール病および遅発性内リンパ水腫の疫学的・臨床的特徴の推移を明らかにしてきた。本研究では、両疾患の難病性の実態を明らかとするため、厚生労働省科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）難治性めまい疾患に関する調査研究班の班員により疫学調査を行った。さらに、メニエール病の有病率、罹患率を推定するために比較的受療圏が限定された特定地区（新潟県糸魚川市）でのメニエール病の患者調査を行った。

## B．研究方法

メニエール病および遅発性内リンパ水腫患者調査では、平成 28 年 1 月 1 日から平成 28 年 12 月 31 日までに班員の医療機関を受診したメニエール病確実例および遅発性内リンパ水腫患者を対象とした。メニエール病については新規発症患者を対象とし、患者調査にはマイクロソフトエクセルの調査ファイルを用いた。調査項目は、性別、患側、年齢に加えて、家族歴を調査した。遅発性内リンパ水腫では、同側型および対側型遅発性内リンパ水腫を対象として、患者調査にはファイルメーカープロの患者登録レジストリを新たに作成した。調査項目としては、性別、患側、年齢、先行する高度難聴の原因、発症までの期間、純音聴力検査結果に加えて厚生労働省特定疾患前庭機能異常調査分科会(1999)によるメニエール病の重症度分類に従って重症度分類に

関する事項とした。メニエール病の地区調査では、新潟県糸魚川市対象として、平成 28 年 1 月 1 日から 12 月 28 日までに糸魚川市では唯一の耳鼻咽喉科開設医療機関である糸魚川総合病院耳鼻咽喉科を受診したメニエール病確実例を診療録から調査した。

（倫理面への配慮）

疫学調査については、倫理委員会の承認を得て行った。年齢と性別を除く患者の個人情報抽出せず、診療情報は匿名化を行った。

## C．研究結果

遅発性内リンパ水腫患者の疫学調査では、平成 28 年の遅発性内リンパ水腫患者は 46 例で同側型が 61%、対側型は 39%であった。男性患者は 44%、女性患者は 54%、高度難聴の原因は、原因不明の若年性一側聾、突発性難聴、ムンプス難聴の順であった。

メニエール病患者の疫学調査では、平成 28 年の新規発症メニエール病確実例は計 140 例であった。男性患者は 39%、女性患者は 61%、両側化率は 5%であった。発症年齢のピークは 40 才台～60 才台で 60 才以上は 31%であった。家族歴があったのは 4%であった。

糸魚川市の疫学調査で、平成 28 年にメニエール病確実例で糸魚川総合病院を受診、治療をした患者は 15 人であり、有病率は人口 10 万人対 33.7 人と算出された。新規発症患者は 0 人であった。

## D．考察

遅発性内リンパ水腫患者調査では、病型や

性差の特徴は前庭機能異常調査研究班の調査結果と同様であった。先行する高度難聴の原因では原因不明の若年性一側聾が過去の調査に比べ減少しており、昨年の調査では突発性難聴よりも少なかったが、今回は先行する高度難聴の原因疾患として最多であった。今後も、原因疾患に変化が現れるかどうか推移を見極める必要がある。地区調査の結果からメニエール病の有病率が算出され、本邦のメニエール病有病者数は 42723 人と推定（平成 28 年 10 月 1 日人口推計結果の概要 統計表より計算）された。

メニエール病確実例新規発生患者の班員施設調査では、女性患者数は全体の約 6 割、両側化率は全体の 5%、60 歳以上の高齢者は 3 割であった。今回の調査では、両側化の比率が平成 13 年以降に行われた前庭機能異常調査研究班の疫学調査に比べて低率であった。一方、女性患者優位化、高齢新規発症患者割合増加傾向は前庭機能異常調査研究班の調査結果と類似であった。家族歴については 140 人中 5 人であった。昨年度の前回調査では 218 人中 2 人であり、合計すると全体の 2%であった。

#### E．結論

今回、厚生労働省科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）難治性めまい疾患に関する調査研究班の班員による疫学調査により、遅発性内リンパ水腫の先行する高度難聴の原因で原因不明の若年性一側聾の割合が過去の

調査より減っていることが明らかとなった。

メニエール病の両側例は 5%であった。メニエール病の有病率はそれぞれ人口 10 万人対 34 人と推定され、昨年調査と同様であった。

#### 1) 糸魚川市人口及び世帯表

<http://www.city.itoigawa.lg.jp/secure/5403/H2809.pdf>

#### 2) 総務省統計局 人口推計結果の概要 統計表 年齢（5 歳階級）男女別人口（平成 28 年 5 月確定値、平成 28 年 10 月概算値）

<http://www.stat.go.jp/data/jinsui/pdf/201610.pdf>

#### F．研究発表

##### 1．論文発表

なし。

##### 2．学会発表

なし。

#### G．知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

##### 1．特許取得

なし。

##### 2．実用新案登録

なし。

##### 3．その他

なし。